

北海道医歌人会詠草

山吹

涼やかに母とぶらひの丘に咲き見つむるなりし山吹の花
 介護士をののしる老女いたはりと癒しの業に従事せし人
 穏やかな物言ひの人入院時腕振りまはしわめきてをりし
 懐しき業務多忙と手術後の患者容体気づかひの日々
 抱卵の孵化おほりしかカラス啼く誇りの声はカワイカワイと

札幌 浜島 泉

林住期

「忍」という文字ピン胸のネクタイに仕事一筋男の人生
 手術せる傷あとのごとツト痛む若かりし日の苦き想ひは
 フサフサと前髪生へた不思議だと思っていたら夢から覚めた
 胸元の谷間にこぼるる若さ見て(俺の人生こんなで良いのか)
 本読みて新しき発見あることを幸せに思ふ我が林住期

釧路 児玉 昌彦

秋の光

秋の日のヴィオロンの音はなけれども落葉踏みゆく音を愛しき
 赤と黄のカムイミントラ見下ろして光る大雪天に聳ゆる
 白鳥の羽の夕やけに染まる時深まる秋の湖静かなり
 海霧の晴れて沖ゆく磯舟の軌跡はるかに島陰に消ゆ
 蜻蛉のとまりて山羊は眠りたりやはらかき秋の光の中で

栗山 高田 剛太

佐渡への旅

海上を滑りて走るジェットフォイル佐渡への旅は快適なりき
 中型のバスしか通れぬ細き道佐渡おけき節をガイドが歌ふ
 細かすり良く似合ふ女が一本の櫂を上手に盪舟こぐ
 赤き土いとほしむ瞳で清らかに無名異焼が造られている
 鬼太鼓熱演せし昨夜の若者が茶螺の壺焼き賣場にて立つ

旭川 稲積 文子

虫と人

雨あとに帰る葉の無きミミズあり息絶へ絶へに舗道を這ひぬ
 太陽は容赦はないぞじりじりと虫の骸をああ灼き焦がす
 蟻の列ただひたすらに働くを働くはなぜはかなき事よ
 蟻も蜂も反乱はないこの決まり進化といふがよしとすべきか
 働くとは虫も人も同じかな利己と利他とを往ったり来たり

江別 三宅 浩次

古人の言葉

色しろき容貌紅き唇陽をうけて富士を背に負ひ茶摘む娘ら
 秋葉原蝟集する善男善女狙ひ撃ち阿鼻叫喚の巷為す悪
 騒然と混沌溢る人社会を眺めつつうつつろふ四季は
 天災はやむを得ざるも人災は人為すことを忘る勿トッブは
 天災は忘れし頃におそひ来る古人の言葉かみしめよ為政者

札幌 山口 康徳

遠世ながらの定め

幼き日の汝を養女に欲りしといふ関場先生が写つてゐるぞ
 口少し開けてまじろむ妻の辺に歯のなき吾が巨砲をふふむ
 わがためにお百度踏みし妻の脚血液の流れの滞るらし
 宵々に妻の腰に薬を貼ることも遠世ながらの定めなるべし
 蛇蛻場はおろか鼠さへ食はされて後期高齢者とかの一人となりぬ

札幌 小国 孝徳

辻斬りの病理

白昼の無差別殺人平成の江戸の巷に辻斬り走る
 色褪せしズボンの女辻斬りの捻ぢ伏せられし脚が空を蹴る
 辻斬りは獄門梟首過ぎし世の江戸のご法度狂気許さず
 新聞は僭称専門家の空論を載せて事件の抑止力なし
 鑑定医なべて悩まんDSM・IVの基準になじまぬ病理

札幌 古屋 統

重複癌

乳癌を無事乗り越へて四十年大腸癌にてキミさん逝けり
 以前には稀とされたる重複癌長寿の日本に増へ来たるなり
 高齢化進めば癌も増へ来たる安楽の診とり究め行きたし
 尊厳死又安楽死と求むれど國の方針未だ決まらず
 声高に癌対策を掲げしも生存率は未だ半ばなり

美唄 吉村 誠治

謝辞

先日、「医歌人会詠草」の危機をアピールし、参加をお願いしたところ、早速ご賛同を得まして、浜島 泉、児玉昌彦、高田剛太、稲積文子、三宅浩次の各先生が玉稿をお寄せくださいました。拝見しますと往時の殷賑がよみがえった気がいたしまして、誠に感激の極みでございます。後に続く好学の士を密かに念じつつ、意足りませんが取り敢えずお礼の言葉に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

医歌人会詠草幹事 山口 康徳